

2026年度
入学試験問題

国 語

2月10日

受験番号	氏 名

中村高等学校

問題は次のページからです。

一

次の各文の——を付けた漢字の読みがなを書きなさい。

- (1) 情報社会の基盤となるもの。
- (2) 虚偽の記載が発覚する。
- (3) 車窓の景色を楽しむ。
- (4) 流行は廃れるのが早い。
- (5) 発想が軟らかい人。

二

次の各文の——を付けたカタカナの部分に当たる漢字を楷書で書きなさい。

- (1) ヘイオんな毎日を過ごす。
- (2) 新聞社が美術展にキョウサンする。
- (3) 図書館で資料をエツランした。
- (4) 式典はトドコオリなく終わった。
- (5) 皿を割ったことをアヤマる。

三

次の1～5の和歌には、それぞれ一つずつ歴史的仮名遣いで書かれた箇所がある。それぞれ抜き出し、現代仮名遣いに直して平仮名で書きなさい。

1. 我妹子（わぎもこ）が 植ゑし梅の木 見るごとに
心むせつつ 涙し流る （大伴旅人）
2. 春過ぎて 夏きにけらし 白妙の
衣ほすてふ 天の香具山（持統天皇）
3. むすぶ手の しづくに濁る 山の井の
あかでも人に 別れぬるかな（紀貫之）
4. 花さそふ 比良の山風 吹きにけり
こぎ行く舟の 跡みゆるまで（宮内卿）
5. 心なき 身にもあはれは 知られけり
鳴立つ沢の 秋の夕暮れ （西行）

四 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)
* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

嘘のない生き方については「正直」の他に「誠実さ」という概念もあります。[※]ボルノーによれば、「誠実は、開放性と純正さが人間にとって自由に選ばれた目標となるところではじめて発生する。誠実は一つの抵抗^Aから無理やり奪い取られた、人間の自己自身に対する透徹さである」ということです。誠実さとは何か、この文章を解釈しながら考えましょう。

1、誠実さは、単に正直であるだけでなく、嘘がなく自分らしく生きること「目標」として生きるあり方に関わっています。別の例で言えば、勇敢な人のなかにもさまざまな人がいます。ある人はごく自然に勇敢に行動します。ある人は自分が臆病であることをよく知っていて、臆病さを克服して勇敢になることを目指しています。自分の弱さをよく知る者だけが、強くなることを目標にできる
と言つてもよいでしょう。

正直でいたいと望み、嘘をつく誘惑を克服したり、本当のことを話したりするあり方においても、どれだけこのことに悩み、どれだけこのことを人生の重要な目標としているかには程度差があるでしょう。外面的に見てその人が勇敢か、2 正直かという点では同じであつても、その人の心のなかで何が起こっているかはさまざまです。誠実は、
★
に
対する名称だと言えるでしょう。

勇敢であることを目標にするには自分の臆病さをよく知らなければならぬように、誠実であるためには、まず、自分の不誠実さをよく知らなくてはなりません。ボルノーによれば、不誠実の精神に引き入れられることは、個人が、^①権威をもった集団からの期待やその集団の価値判断に順応する傾向において生じるものです。本書の議論で見えてきたように、嘘をつくという実践は、例えば、本当のことを言ったら周りに変に思われるという同調圧力によって誘発されます。この嘘の誘発においては、たしかに多数派の集団が何を普通と見なす

かなどの社会の価値判断に順応していると言えるでしょう。しかしこうした場合だけでなく、善意の嘘が口

35

をついて出てくるということには、コミュニケーションの固定したパターンをなぞっているという側面がありました。この場合にも社会の期待に順応する面があります。さらに、自分の過ちをごまかそうとする嘘は、

40

こういうことをすると怒られるのか、こういうことをすると罰せられるのかという社会の状況を認識した上で、状況に対処するためにつかれるのでした。この場合にも社会の価値判断に沿った対応という面が見られます。

45

子どもが成長するということには、社会化され、世の中の期待や価値判断に順応していくことが含まれます。ということは、^X逆説的ですが、子どもが一人の人間として成長することには、自分のやっていることは自分らしくないという感覚をもつことも含まれるでしょう。

50

自分がやっていることは結局周りに合わせているだけなのでないか、という疑問をもつ、と言い換えても

よいでしょう。

嘘をつくことは内面をもつことの実践であると同時に、本当の自分と見せかけの自分の分離を経験することであり、他人とやり取りしている自分は本当の自分ではないという感覚を育てることであります。ボルノーは「かかる順応がまだ無自覚な形で起こる場合には、まだ誠実とか不誠実の問題はまったく存在しない」と言います。成長し、社会に順応するなかで自分らしさを失っていることを自覚するとき、自分を失うことへの抵抗としての誠実さが目標として目覚めてくるのです。

60

以上のように、誠実さは自分らしくあることを自分で「目標」として選び取るところに成立します。その目標はより具体的には「開放性と純正さ」と呼ばれていました。開放性とは、簡単に言えば、オープンであること、打ち開かれていること、あけっぴろげであることです。純正さとは、ありのままであることだと言えます。私たちには、ありのままにオープンに人に接する人間でありたいと思うことがあるでしょう。

3

これは、社会に順応することで

70

65

55

成長した大人にとっては非常に困難であり、ことさらに人生の「目標」とされるようなものです。

ボルノーによれば、開放性は先天的なもので、純正さは75自然に与えられるものです。どんな大人も生まれた時には、何も隠すことはなく、あるいは隠すこともできず、すべてはオープンだったはずです。嫌であれば大泣きし、好きなものをもらえばニコニコし始めたのではないのでしょうか。

純正さ、つまり、ありのままであることも、最初は、努力80して達成することではなく、単に自然とそうだったはずです。しかし、これらの開放性や純正さは、社会に順応して一人の人間として成長するなかで失われていきます。ありのままの自分で、オープンに人に接することができればどんなによいでしょう。しかし現実には、胸を張って、私は85自分らしく偽りのない人生を生きていると言える人はほとんどいないのではないのでしょうか。

②生まれつきの仕方オープンであることが失われた後、それでも隠し立てなく打ち開かれたあり方をしようとする
と、かえって「悪しき開放性」や「悪しき閉鎖性」に陥る90
という難しさをボルノーは指摘しています。他人に対して

オープンに振る舞おうと努めて試みると、必要以上に馴れ馴れしくしたり、軽率に言うべきでないことも口にしたリして、結局は他人に対して失礼になってしまうという「悪しき開放性」に陥る危険があります。他方、他人にあまりに近づきすぎないように気をつけると、他人と話すことを恐れ、小心になつて自分の殻に閉じこもったり、自分だけではよいのだ、他人と話す必要なんてないんだと開き直つたりする「悪しき閉鎖性」に陥る危険があります。

また、「ありのままである」というのも、自然にそうであつた時期を過ぎて、周りの期待や価値基準に合わせて行動するようになった後では、簡単ではありません。誰かと話す時に、相手が自分に言つて欲しいと期待しているであろうことを言うのではなく、自分が思っていることをありのままに話そうと意識する場合を考えてください。問題は、「ありのまま」とは意識せずに与えられるものであり、意識して技巧的になると「ありのまま」からは遠ざかつてしまふということ。相手が友達でも親でもかまいません。ありのままを意識すると、ぎこちない話し方になつて、自分らしさからは遠ざかつてしまふ場面を誰でも思い起こす

ことができるのではないだろうか。

誠実であること、つまり、幼い頃にはただそのまま享受していた状態、つまり、あけっぴろげでありのままである

という姿を回復することは、成長して、一人の人になった

存在にとつては大きな困難です。だから、誠実さにおいて

は、社会で生きていく中で自分を失っていくことに対する

一つの抵抗として、自分を取り戻すことが問題なのです。

ボルノーは誠実さを「人間の自己自身に対する透徹さ」の

点で特徴づけていました。私たちは自分であるというだけ

の理由で、自分についてよく理解しているというわけでは

ありません。自分を知るためには、自分のことをよく考

える必要があります、また、自分のことをよく考えるためには、

自分を大切にする必要があります。誠実さが目標になる時、

人は自分を大切にし、何重もの仕方で自分のことを考えて

いるでしょう。

周りのことを気にかけることなく、自由にありのままに

生きていた時のことを懐かしく思い出すこと。成長するに

つれ、社会に合わせている部分が大きくなってきたことを

振り返って見つめること。それでも自分らしくあることを

諦めず、オープンでありのままに接したいと望むこと。相

手に疑い深くなるのでも、相手の考えを決めつけるのでも

なく、素直に話し合うことを望むくらい、相手を大事にし

たいと感ずること。嘘のない生き方をしようと望むこと、

誠実さを目標として生きることが、自分自身に対する「透

徹さ」、つまり、自分自身のことを透き通るように知るこ

と、そのようにして自分以外の何物でもないその自分であ

ることなのです。

（池田喬『「嘘をつく」とはどういうことか

哲学から考える』筑摩書房）

※ボルノー……オットー・フリードリヒ・ボルノー

（一九〇三〜一九九一）。ドイツの

教育哲学者。

問一 〓 線A「抵抗」と同じ構成の熟語を次から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア、雷鳴 イ、厳禁 ウ、増減 エ、幸福

問三

★ に入れるのにふさわしい言葉を次から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア、他者を合わせ鏡として自己を見つめる、その心の働き

イ、他者との関係性を尊び、勇敢であろうとする心の働き

ウ、自分のあり方に悩み、自分らしさを求めるその心の働き

エ、自分に自信を持ち、他と異なる自分を確立する心の働き

問二

1 3 に入る言葉を次からそれ

ぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、しかし イ、あるいは
ウ、たしかに エ、まず

問四 ——— 線①「権威を持った集団」と同じ内容を表

す言葉を本文☆の中からそれぞれ指定の字数で三つ抜き出しなさい。

ア、六字

イ、二字

ウ、三字

問五

~~~~~線Xとありますが、次のことわざの中で逆説的でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、急がば回れ

イ、負けるが勝ち

ウ、ただより高いものはない

エ、風が吹けば桶屋<sup>おけや</sup>がもうかる

問六

——— 線②とありますが、次のア～オについて、「悪しき開放性」の例として示しているものには「A」、「悪しき閉鎖性」の例として示しているものには「B」と解答欄に書き入れなさい。

ア、慎み深さを信条としているため、話し合いには参加しない。

イ、親しい間柄であれば、どのようなことでも遠慮なく話をする。

ウ、口を開くと余計なことまで話し、後悔することが多い。

エ、他人と正面切って話す必要はないと断定し、行動する。

オ、人は人、自分は自分なので理解はされないと思いつ込む。

問七

——— 線③と同様の意味で使われている言葉をこれより前の本文中から七字で抜き出しなさい。

問八 本文で筆者が述べていることとして正しいものを次

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、誠実さを求める人間にとって何よりも大切なことは、自己の中にある臆病さを克服し、勇敢になることである。

イ、自己の中の不誠実な精神に引き入れられないためにも、周りをよく見て相手の気持ちを大切にする必要がある。

ウ、誠実さは自分らしく生きたいという人間の欲求そのものであるため、自己とあまり厳しく向き合わない方がよい。

エ、自分自身とよく向き合い、透き通るように自己を知って自他ともに大切にすることは誠実さにつながっていく。

問九

本文には「ありのままである」ことの難しさについて触れられていました。あなたがこれまで人との関わりの中で「ありのまま」に振る舞うことが難しかった場面を一つ挙げ、どのように対応したかを二百字以内で書きなさい。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や「などもそれぞれ字数に数えなさい。

【五】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。）

\* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

すつきりと澄み渡った秋晴れの空の中で、赤茶けた枯れ葉をつけた桜の枝が、少しだけ寒そうにかすかに揺れている。

その下を、イヤホンで英語のリスニングのプログラムを聴きながら、ぶつぶつ、ぶつぶつ、構文の言い回しを口の中となえて、通り過ぎる私。

目の前に、はらりと一枚、桜の葉っぱが落ちてきた。□

1 □それだけなのに、びくつとして立ち止まってしまう。

ああ、もう。<sup>①</sup>なんでこんなにびくびく、カリカリ、イライラしてるんだろう。

ため息をついて、イヤホンを外した。ついさつき、玄関先まで見送ってくれたお母さんとのやり取りを思い出す。私が玄関に座ってムートンのブーツをはいているのを、背中の方でみつめる気配。——お母さんだ。私は立ち上がると、振り向いて言った。

15

10

5

「もう、いちいち見送りとかやめてよ。小学生と違うんやから」

2 □、つかかってしまった。お母さんは、にこにこしながら、

「見送りと違うよ。ちよつと、朝のうちに春菊の種をまいとこかな、思つて」

などと言う。この春、庭の一角に作った小さな菜園を、それはそれは大切にしているのだ。

私は、何も言わずにドアを開けて外へ出た。3 □イ

ヤホンを耳にセットして、スマホの「英語構文ヒアリングアプリ」をタップする。大音量で、英語が鼓膜に響いてくる。

「イフ・ユー・キャン・ドリーム・イット、ユー・キャン・ドゥー・イット。……イット・オールウェイズ・シームズ・インポッシブル、アンテイル・イツ・ダン……」

ぶつぶつ、ぶつぶつ、つぶやきながら、門扉を開けて出ていこうとすると、背中をちよいちよい、つかれた。振り向くと、お母さんが、やっぱりにこにこ顔で、ほら、つて感じで、右手に持った春菊の種の袋を私に向かって見せ

30

25

20

た。「春菊」と書かれている文字の、「菊」を指で隠して。  
口をぱくぱく、ぱくぱく。

「え？ 何言うてんの？」

私が大声で訊くと、お母さんは、種の袋の「春」の文字  
を左手で指差して、ゆっくり、口を動かした。

は・る・わ、く・る・よ。

春は、くるよ——と、言っているようだ。私は、な<sup>②</sup>

んだか、かちんときてしまった。

「何やのそれ。意味わからへんし」

そう言つて、ぶいっと通りへ出てしまった。

はらり、はらり。秋の風に吹かれて、舞い落ちる桜の葉。

しやがんで、一枚、拾い上げる。指先で、くるっと回して、

ふうっと息を吹きかけて飛ばす。

そう、私、むしゃくしゃしてる。——浪人生やもん、

しやあないやん。

毎日、毎日、勉強、勉強。市内にある予備校への行きも

帰りも、こうしてヒアリングの勉強して、電車とバスの中

でも、一分一秒を惜しんで、参考書めくつて……。

いつまでこんな日々が続くんだろう。

秋空に枯れ葉の枝を広げる桜の木。ふと立ち止まって、  
見上げてみる。

——春は、くるよ。

私がカリカリしているときも、笑顔を絶やさずに、さり  
げなく励ましてくれるお母さん。

それなのに、あんなふうにあたつてしまった。

あーあ、いやだいやだ。自己嫌悪。

こんな私には、

X

## 《 中略 》

私(由芽)は家の近くにある「スイート・ホーム」というスイーツの  
店に立ち寄る。香田さん一家が営むこの店は、お父さんがパティシェ  
で、お母さんと妹のいっこさん、結婚して来年少生になる子がいる  
娘の陽<sup>ひな</sup>皆さんが交替で店番をしている。美味しいお菓子と温かい雰  
囲気で地元でも人気であり、私(由芽)もこの店によく通っていた。

あんまりがんばりすぎるのもあかんよね、と自分に言い  
訳して、秋口くらいまでは「スイート・ホーム」へちよこ  
ちよこと出かけていたのだけれど、さすがに秋が深まる頃  
にはうかうかしてられない気分になってきた。

勉強の合間にスイーツを楽しむ余裕もなくなって、この日は出かけるときに、つい、お母さんにそっけなくしてしまった。

春は、くるよ。――と、せっかく言ってくれたのに。

予備校からの帰り道、なんとなくくまっすぐ家に帰る気がなくて、ふと、「スイート・ホーム」に寄ってみようかな、と足が向いた。

「どう、勉強のほうは？　がんばってる？」

陽皆さんに訊かれて、私は、「うん、まあ……」ともごもご、口の中で応えた。

「今日は、予備校の帰り？」

「うん、まあ……」

「そっか。息抜きに寄ってくれたんやね」

「うん……」

ずつと、もごもご、ごによごによ。陽皆さんは、私の様子がちよつとヘンだと気がついたのか、

「ね。よかつたら、お茶していかへん？　ごちそうするし。」

……私、もう上<sup>A</sup>がる時間やから」

と、誘ってくれた。私はすなおにうなずいた。

「あら由芽ちゃん、ひさびさやね。なんや、受験勉強づかれ？　あんたちよつと、やせたんと違う？」

店番をバトンタッチされて登場したいっこさんが、私の顔を見るなり言った。

## 《 中略 》

店内にはちよつとしたカフェスペースがあった。テーブルを挟んで私に向かい合うと、陽皆さんは、「がんばりすぎてへん？」と囁<sup>ささや</sup>き声で尋ねた。

「いつこおばちゃんの言う通り、ちよつとやせたし、元気ないなあ、つて思つて。これから大変な時期やと思うけど、たまには休まんとあかんよ」

やさしい言葉をかけられて、心が、ぐらりと揺れた。まるで水がいつぱい入ったコップを傾けたように。

私は、下を向いて、目を閉じた。なぜだか、泣いてしまひそうだった。ぎりぎりのところで、どうにか涙を止めた。陽皆さんは、じつと私をみつめて、何も言わなかった。そのやさしさが、あたたかさが、うれしかった。

「……『春は、くるよ』って、お母さんが言うてくれたのに。……なんか、私、めっちゃそっけなくしてしまつて。なんかイライラして……『もう春なんかこない』って気分になつて」

ぽつり、ぽつりと、ただ胸に募る気持ちのままに言葉が口について出た。なんの脈絡もない言葉。きつと、陽皆さんには、なんのことやらさっぱりわからなかつたに違いない。

しばらくして、陽皆さんは、黙つたままで席を立つと、お店の奥へと行つてしまった。私は、あわてて目をこすると、顔を上げた。

このお店は厨房ちゅうぼうとのあいだがガラス張りになつていて、店内から厨房が見えるようになっていた。そこでせつとケーキを作るパティシエに、陽皆さんが何やら話しかけているのが見えた。パティシエは、ひとつうなずくと、忙しく手を動かし始めた。

そして、五分後。

「はい、お待ちとおさま」

陽皆さんが、トレイの上にショートケーキをふたつ載せ

て、私のテーブルまで運んできた。私は、目を瞬かせて、ケーキをみつめた。

——あ……。

③ ケーキの上に、ちよこんと載せられた、薄紅色の——桜の花びら。

「いま、お父さんに頼んで、マジパンで特別に作つてもらつたの。どう？ なかなかよくできてるやろ？」

私は、吸い込まれるようにして、桜の花びらをみつめた。はらはら、はらはら……こぼれ落ちたのは、花びらではなく、涙だつた。

「いま、食べる？ それとも、これ、ふたつ……持つて帰る？」

陽皆さんが訊いた。私は、うん、とうなずいた。

「……持つて帰る」

「Y と、食べる？」

「うん。……食べる。Y と」

なんだか、涙が止まらなくなつてしまった。陽皆さんの、やさしい手がふつと伸びて、私の前髪をそつとなでた。

「いっぱい、泣いていき。ここで。……せやけど、笑顔で」④

帰らんとあかんよ」

うん、ともうひとつ、私はうなずいた。

春は、くる。――きつとくる。

秋の桜の花びらに、ぽつんとしよっぱい涙が落ちた。

(原田マハ『スイート・ホーム』ポプラ社)

140

問二 ――― 線①とありますが、「私」がこのような状態

になっているのはなぜですか。解答欄に合うように  
本文中から三字の語句を抜き出しなさい。

( ) だから。

問三 ～～～ 線Ⅰを言い換えると、どのような言葉にな

りますか。次から選び、記号で答えなさい。

問一 1 3 に入る言葉をそれぞれ次

から選び、記号で答えなさい。

ア、すぐさま イ、もはや

ウ、つい エ、ただ

ア、いつも イ、おざなりに

ウ、ほどよく エ、めつぼう

問四

—— 線②とありますが、この時の「私」の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、英語の勉強を一生懸命にしている時に限ってタイミング悪く話しかけてくるお母さんに対し、もっと娘の状況をよく分かってほしいと思っている。
- イ、受験を控えたイライラをいつも抱えているため、それを理解して励ましてくれるお母さんのゆつたりとした構えに甘えて、八つ当たりをしている。
- ウ、庭の菜園のことをのんきに考えているお母さんには、受験を控えた自分の切羽つまった思いなどは結局分かってもらえないと憤っている。
- エ、庭の菜園にまく春菊のことよりも、もっと自分の心配をしてほしいのに分かってもらえず、悲しみと怒りが交ぜの気持ちになっている。

問五

|   |
|---|
| X |
|---|

 に入れるのにふさわしい一文を次から選び、記号で答えなさい。

- ア、春は永遠にこないかもしれない。
- イ、いつか家族も愛想を尽かすだろう。
- ウ、英語の構文も完璧にはできないだろう。
- エ、野菜作りの方が向いているかもしれない。

問六

—— 線 A・B について、A は傍線部が同様の意味で使われているものを、B は同じ意味でこの文字が使われている熟語を、それぞれ選び記号で答えなさい。

- A ア、椅子から立ち上がる
- イ、ケーキが焼き上がる
- ウ、座敷に上がる
- エ、火の手が上がる

B ア、思募

イ、急募

ウ、募金

エ、募集

問九

——線④とありますが、陽皆さんはなぜ「私」(由芽)にこう言ったのでしょうか。考えられる理由を五十字以内で答えなさい。

問七

——線③とありますが、これは「スイート・ホーム」の人達からのどのようなメッセージだと考えられますか。三十五字以内で答えなさい。

問八

Y

に共通して入る適語を本文中から抜き出して答えなさい。